

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	高田 徳容
審査担当者	主査 教授 櫻木 範明 副査 教授 武富 紹信 副査 教授 水上 尚典 副査 准教授 篠原 信雄		

学位論文題名

膀胱全摘術における周術期合併症の多施設後ろ向き観察研究

膀胱全摘除術周術期合併症の国内における実態の把握を目的に多施設後ろ向き観察研究を施行した。対象は 21 施設において過去 14 年間に根治的膀胱全摘術が施行された 928 名である。手術後 90 日以内の周術期合併症は 635 症例 (68%) であった。重度合併症が 156 例 (17%)、19 例 (2%) が死亡していた。合併症予測因子は心血管系疾患の既往と腸管利用尿路変向であった。

審査に際して、武富教授から合併症が多い腸管利用の尿路変向を何故進めていくのかと質問があった。腸管利用の尿路変向は合併症が多いけれども術後の QOL は同術式の方が高くそれを重んじる現在の傾向があるためと回答があった。

水上教授から死亡を予防するにはどういう対策を考えているのかと質問があった。死亡の原因疾患は多岐にわたっていて頻度の少ない疾患が原因の例もあり予測・対策は難しいと回答があった。また施設規模と合併症との関連はなかった理由は何かと質問があった。日本では経験値の様々な医師が術者となり施設の経験値イコール術者の経験値となりにくいと回答があった。

櫻木教授から心血管系既往が合併症のリスクファクターとなっている理由はどう考察するのかと質問があった。発表や論文では考察していないが心血管系既往と尿路変向とが交絡因子となっておりこのために前者が有意な因子という結果が導かれた可能性を考えていると回答があった。

篠原准教授から術者の経験値と成績の関連性の解析は可能かと質問あり、術者の経験年数と合併症との間に有意差は出なかったと回答があった。

今後は感染症を中心とした合併症の予防を実践し、腹腔鏡手術やロボット手術などの低侵襲手術の導入が膀胱全摘術の手術成績向上をもたらす可能性について期待される。

審査員一同はこれらの成果を評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受ける資格を有すると判定した。